

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	必修
担当教員			
泉谷 泰行			
金3			
添付ファイル			

科目の概要	<p>昨今、医学の進歩により医療現場は高度化し、また高齢社会など社会環境の変化に伴い患者の病態は複雑化している。このような状況の中、看護師はチーム医療の主力として患者に対して常に直接接し、医師と共に医療現場の両輪となって診断および治療を行わなければならない。患者に対して質の高い医療を提供するためには、疾患に関する正確な知識を基盤に持ち、目の前の患者の病態を正しく理解することが必要不可欠である。つまり、どのような原因で正常な細胞・組織・臓器の形態や機能に異常が生じているか、またどのような機序で現在の症状が生じているのか、さらに今後生じる可能性があるのかという患者の病態を十分に把握することが、適切な看護を行うための第一歩である。この講義ではまず解剖生理学で学んだ主要な器官系を復習し理解度を確認する。さらに各器官系に関する病態および専門用語について講義する。</p>
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等）、病因について解説する。シラバスを事前に読んでおくこと。</p> <p>第2回 退行性病変①；変性、萎縮について解説する。講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>第3回 退行性病変②；代謝障害、細胞の死について解説する。講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>第4回 進行性病変①；肥大、増殖、再生、化生について解説する。講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>第5回 進行性病変②；移植、脳死、大脳死、死の三徴候について解説する。講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>第6回 先天異常と遺伝子異常①；奇形、染色体異常について解説する。第1回～第5回の講義内容について小テストを行う。講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>第7回 先天異常と遺伝子異常②；遺伝性疾患について解説する。講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>第8回 循環障害①；充血、うっ血について解説する。講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>第9回 循環障害②；虚血、貧血、出血について解説する。講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>第10回 循環障害③；ショック、梗塞（血栓、塞栓）、浮腫について解説する。講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>第11回 免疫異常①；免疫、アレルギーについて解説する。第6回～第10回の講義内容について小テストを行う。講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>第12回 免疫異常②；免疫不全症候群について解説する。講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>第13回 免疫異常③；炎症について解説する。講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>第14回 腫瘍①；腫瘍の概要について解説する。講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>第15回 腫瘍②；腫瘍の分類、発生要因、腫瘍マーカーについて解説する。第11回～第14回の講義内容について小テストを行う。講義プリントを読み、疾患について調べておくこと。</p> <p>定期試験（第1回～第15回までの内容）</p>
学習到達目標	<p>医療従事者には患者およびその家族に対する病態の説明義務がある。説明することにより患者は安心して医療を受けることができ、またその家族は安心して医療現場に任せることができる。しかし、医学用語の丸暗記では十分な説明は困難であり、結果、治療に様々な支障をきたす。それを防ぐためには、医学用語の単なる丸暗記ではなく、まず器官系の構造や機能を理解し、さらに器官系に関する症状の機序を理解することである。この講義では、理解することを心がけ、患者に説明できるようになることを目的とする。</p>
授業の方法	<p>【授業形態】 講義形式（講義プリントを配布する。）</p> <p>【その他特記事項】 講義の復習として動画を配信する。</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 小テスト、定期試験</p> <p>【割合】 小テスト（30%）、定期試験（70%）</p>

教科書・テキスト	特に指定しない
参考書	看護のための臨床病態学（改定第3版）、浅野嘉延・吉山直樹著、南山堂
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	解剖生理学の復習は常に続けること。また定期的に小テストを行うので、講義プリントを用いて復習すること。
履修上の留意事項	勉学にいそむ学生の邪魔をする行為（過度な私語など）は禁止する。また板書した内容およびスライドをカメラなどで撮ることおよび講義中の携帯電話・スマートフォンの使用は禁止する。単なる専門用語の丸暗記ではなく、まずは内容を理解することを念頭に置いて下さい。
オフィスアワー	金曜日 4限・5限
課題に対するフィードバックの方法	定期的に行う小テストに関しては、テスト終了後に解説行い、次回の講義にて返却する。
実務経験	鍼灸師
その他	特になし